

第2回徳島市民病院経営健全化推進会議 議事録（要約）

【開催日時】 平成26年10月29日（水） 午後4時～午後6時

【開催場所】 徳島市民病院 3階第1会議室

【議事内容】 1 開 会

2 審 議

・徳島市民病院経営強化プラン（案）の策定について

事務局より、資料に基づき前回からの修正点を報告するとともに、数値目標については平成31年までの案を提示し、設定に至った経緯の説明があった。

・収支計画（案）について

事務局より、資料に基づき今後の収支計画（案）の提示があった。内容については、純損益、単年度資金収支額ともに黒字基調となるものであり、緩やかではあるが資金が累積していく予定である、との説明であった。

・医師の現状について

事務局より、資料に基づき医師の現状についての説明があった。内容としては、医師の高齢化が進んでいる、といったものであった。

A委員) ⇒ キャンサーボードの実績（平成25・26年）が0回となっているが、大学病院とは共同キャンサーボードを実施してないのか？

事務局) ⇒ 数値目標については、がんセンターが主体となるキャンサーボードの回数のみを計上している。地域がん診療連携拠点病院の要件であるキャンサーボードについては、現在も行っている。

B委員) ⇒ そのような経緯であれば、平成25・26年については0件ではなく、斜線とすべきではないか？

A委員) ⇒ 医師の年齢構成が逆ピラミッド型になり、平均年齢についても右肩上がりとなっている。大学病院との連携を強め、医師の充実を図る必要があると思われる。特に手術件数を増やしていくためにも、内科医を充実させていくことが重要である。

事務局) ⇒ 医師の充実については、考えて行きたい。

A委員) ⇒ がんセンターを成功させるには、認定看護師の人数が重要である。徳島市民病院では院内認定は利用しているか？大学病院では院内認定を行っているので、ぜひ積極的な参加をして欲しい。

- C委員) ⇒ 大学病院の認定については、助産師が活用させてもらっている。今後とも積極的に参加していきたい。
- D委員) ⇒ 数値目標について、救急医療の目標値が上昇しているが、具体的な根拠はどの様なものか？
- E委員) ⇒ 内科医の救急体制を10月より改善した。今後についても、さらなる改善を予定している。
- D委員) ⇒ 医療スタッフの充実を図るための、職員定数条例の枠は残っているのか？
- 事務局) ⇒ 410の定数に対して現在は407の人員であり、余裕はない。しかし、経営強化を図る上で医療スタッフの増員が不可欠との意見があるため、条例改正も視野に入れて検討したい。12月の市議会において経営強化プラン(案)を提出し、プランの重要性を公表していきたいと考えているが、医療スタッフの増員についても盛り込みたい。
- D委員) ⇒ 徳島市の人口予測は減少傾向にあるが、この計画に対する影響はないのか？
- 事務局) ⇒ 予測では人口の減少とともに高齢化が進むとされている。そのため医療を必要とする人口については、当面影響のないものと考えている。
- 事務局) ⇒ 医療提供体制の見直しとして、病床機能報告制度が開始され、県が主導となり都道府県単位で病床機能別に管理していくこととなる。国が平成26年度中に策定するガイドラインに則って改革が行われていくことになり、公立病院としては厳しい環境が想定される。
- B委員) ⇒ 地域医療は県が中心となって行われていくとのことだが、徳島市民病院で開始されるがんセンターについて、県との調整などはしているのか？
- 事務局) ⇒ 来年度以降になれば、県主導の改革が推進されることが想定される。このような状況をふまえ、先行する形で、徳島市民病院の特色を出していくために、がんセンター構想を立ち上げている。

事務局) ⇒ 国の施策では、一般急性期病床を削減し、慢性期病床を増やしていく方針であるが、徳島に限れば双方が余っていると言われている。その中で足りていない緩和ケア病床をがんセンター構想の中で打ち出していくこととした。

A 委員) ⇒ 5大がんに対して完結した治療が可能であり、かつ甲状腺がんについても認定専門医施設となっている徳島市民病院は、需要の高い緩和ケアの受け皿になれる可能性は高いと思う。

E 委員) ⇒ 今年度から大学病院との間に、医療等連携協議会を立ち上げ、さまざまな協議を行っている。これは、大学病院との関係性を保っていくためにも重要な場であり、協議の内容を経営強化プラン(案)に盛り込んではどうか？

B 委員) ⇒ 具体的にはどのような内容か？

E 委員) ⇒ 大学病院からの研修医については、過去の実績において88%の研修医を大学病院に戻しており、医師の循環を回している。今後とも研修医の受け入れを強化していくとともに、大学病院からの医師の派遣を要請していく、という内容である。

A 委員) ⇒ 医学生に対する研修制度の変更により、72週という長期の実習が必要となる。今までも徳島市民病院には、外科を中心に協力をいただいているが、徳島に医師を残すためにも研修の充実は重要であるととらえているため、より一層の協力をお願いしたい。

G 委員) ⇒ 医学生の研修については、現状の職員数でもかなりの手間暇がかかっている。それが今後増えるとなると、現状のスタッフ数では十分な研修を行うことはできない。スタッフの増員は不可欠である。

F 委員) ⇒ 経営強化プラン(案)の中でも「次代を担う医療人を育てるために」については、内容に乏しいところがある。強化をしていきたい。

事務局) ⇒ 本日の会議の内容を経営強化プラン(案)に盛り込んだ上で、12月の市議会に提出していきたい。

A 委員) ⇒ 新たな専門医制度の開始を見越して、徳島市民病院で専門医を育てていくといった内容を、経営強化プラン(案)に盛り込んでもらいたい。医師の若返りを回るとともに魅力が広がることになる。

D委員) ⇒ がんセンターの内容をもっと具体的に盛り込んではどうか？

G委員) ⇒ がんセンター準備委員会で検討している内容は、緩和ケア病棟の設置、がん専門外来の開設、安心カードの3本柱である。

事務局) ⇒ 12月議会に提出していく内容の中には、がんセンター準備委員会での調整が十分にできないものが多い。

B委員) ⇒ 12月議会への提出内容については、がんセンター準備委員会での協議が十分に実施されたもののみ、盛り込んでいけば良い。

5 閉 会

次回の開催は12月中旬の予定である。